

心と心の交流を

陳 徳仁〈中美商行社長〉

林 同春〈神戸中華同文学校理事長〉

石 嘉成〈神戸華僑聯誼会副会長〉

★神戸の夜明けを灯した華僑

陳徳仁 神戸に最初華僑が来たのは、明治元年、開港の年なんです。その時は十二、三人です。それ。そういう人たちは長崎とか横浜あたりから渡って来たんです。この人たちは、ずっと以前から貿易の仕事をやっていたんです。横浜の場合は、領事館などの役所関係の使用人として来たけれども、神戸の場合は、本当に開拓でやって来たんです。今では、神戸の華僑は八千人から九千人近くにもなろうとしています。もちろん最初の十二、三人の華僑の子孫だけでなく、日清戦争や日露戦争などで入れかわりたちかわりして、現在に到っているんです。まあ、ここで私の知っているのは、王さんなんかは古いですね。王柏林さんで三代目でしたか。

王柏林 私で四代目です。私の曾祖父が長崎からやって来たんです。長崎はだいたい福建省の出身が多かったんです。

陳徳仁 最初は、明治何年頃ですか。

王柏林 やつぱり、明治のはじめ頃じゃなかったんです。ようか。

陳徳仁 それじゃ、十二、三人の中に入っていたんです。ようか。

王 柏林〈神戸中華同文学校理事〉

楊 勝美〈神戸華僑聯誼会副会長
三興商事株式会社〉

王柏林 入っていたかもしれませんね。

陳徳仁 あの当時、神戸にやって来た華僑は、ランプです。石油ランプなんかを持って来たんです。ですからまさに、明治の暗い明け方に明かりを持って来たという事です。笑

とにかく今日は「神戸っ子」の方に、「お目出とうございます」とあいさつされた時は非常にうれしかったです。今までは、実際中国との間は、口では親善親善という反面、政府も中国に対しては友好的でなかったですから華僑も言いたいことも言えなかったです。ただ民間的には、親善的な交際もありましたけれど、しかし華僑自身はやはり、不自然な状態だったんです。

今回は、両国政府が小異を残して、大同につくという大きな精神を持って結ばれてゆくということで五十五歳になる今日まで、これ程うれしいことはなかったですね。

陳徳仁さんのところはいつ頃から神戸にいらっしやったんですか。

陳徳仁 ぼくは二代目なんです。父が明治二十八年か九年ぐらいたと思います。

林同春 ぼくの子供を入れて三代目です。父親は福建省の出身で、それも特に田舎の方の出なんです。最初は京



陳 徳 仁 さん

になりますから、一八九九年です。

王柏林 私の父親もその卒業生です。

陳徳仁 神戸の同文学校ができたのは明治なんです、名誉校長に犬養毅さんがなっておられました。清国政府の圧迫などがありまして、校長になる人がいなかったんです。その時に犬養さんが「それじゃ、私になってあげよう」ということで、同文学校の名誉校長になられたんです。で、その時にお金を出したのが、王さんの祖父さんだとか、当時の理事長をしておられた麦少彭という人達です。麦少彭という人は、華僑の中でも非常に出世した人なんです、神戸で馬車があるのは松方幸次郎と麦少彭だけだったんです。

王柏林 当時の話は、よく親父に聞かされました。松方さんがいつも馬車に乗って、祖父さんのところに遊びに来たんだそうです。当時はもちろん車はありません。たいていは人力車だったんですが……

私のお祖父さんのことは、陳舜臣さんが五、六年程前に「神戸っ子」に簡単に紹介されておられましたね。

陳徳仁 王さんのお祖父さんの王敬祥、その他、さっき申しました麦少彭、呉錦堂、馬聘三などが、その当時活躍した人たちですね。麦少彭と呉金堂のことは、村松梢風の書いた「名勝負物語」に出ていますよ。鈴木岩次郎を相手にまわして株をやり、鈴木岩次郎が負けて、それから安田善次郎に頼みに行つて、彼がバックになってはじめて呉錦堂、麦少彭に勝った訳なんです。呉錦堂は自分の持っている株を全部投げだして「私はもう株はやらない」と言つて、今後は社会事業でもしようかということ、垂水の奥にひっこんでその地域を開拓し、日本人の貧しい農民をそこに入植させたりしたんです。現在もそこにちゃんとした村が残っており、呉錦堂がつくったもので呉錦堂村になっているんです。当時の十何世帯が現在では四十何世帯になっていて、毎年呉錦堂祭というのをやっているんですね。

その他、鄭雪濤なんかも華僑の歴史に遺っている人た

都におりまして、戦時中には岡山、神戸に出て来たのは終戦後なんです。だから他の人よりは神戸の街をしらないと思います。

陳徳仁 しかし林さんは神戸に出て来られてから、神戸の華僑のために、非常な努力をなさつてこられましたね。だから、終戦後神戸に林さんがこられたということは、われわれ在神の華僑にとっては非常なプラスだと思います。

楊勝美 ぼくの父親も、林さんと同じように福建省の田舎の出なんです。こちらに出て来てからは、最初徳島の方で行商をやっていました。まあ、福建省の人は、北海道から鹿児島まで、全国各都道府県にいたんですが、私たちが神戸に出て来てからは、徳島県には一人もいなくなりました。ぼくは昭和二十年暮ぐらゐに神戸にやってきましたから、およそ二十七年ですね。

石嘉成 ぼくは、昭和二十一年ぐらゐに神戸に来ました。それまでは尼崎にいたんです。親父が来たのは昭和十二年ぐらゐですかね。ぼくが日本に来たのは十五年ぐらゐです。それで日本の学校に行っていました。

—— 中華同文学校が出来たのは？

陳徳仁 あれはやはり明治ですね。現在で創立七十余年



林 同春さん

ちですね。まあ、こういう人たちが学校を建てたり、社会事業をしたら、貧民を救ったりした人たちで、その中には孫文のために金を出した人もいますよ。孫文は神戸の華僑とは関わり合いが深く、だいぶ借金もしているんですよ。(笑)

★中国に理解を示した日本人たち

王柏林 神戸の華僑は、神戸という地域社会の中に深く



石 嘉成さん

解け込んでいるんですね。だから日本の方も、華僑のことを、それほど外国人として意識なさらないでしょう。またわれわれだって、自分たちがいま外地におるんだということを、日常の生活の内では感じておりません。

陳徳仁 それからまあ、日華親善ということなんですが……神戸にいる日本人で中国との親善につくした人がいるんですね。たとえば滝川弁三さん、それに滝川儀作さん。この人たちは相当中国に理解を示されましたね、滝川儀作さんは日華実業協会の会長もなさいましたね。

王柏林 儀作さんも同文学校の協力者ですね

陳徳仁 ええ、土地を斡旋してくれたりしました。ただ惜しいことには、滝川儀作さんが亡くなった後に、こうした遺志をつくる人たちが神戸に出てこないですね。

まあ現在の兵庫県知事である坂井さんとか、神戸市長の宮崎さんなんか、今後の日中親善の先鋒となって活躍していただけたらと思っています。ぼくたちは大いに期待しております。

直木太一郎さんは、非常に理解のある方で、まだ、日中国交回復がなされていない時に、「現在の中華民国との国交は不自然である。やはり七億ある中国大陸と国交を結ぶべきだ」とある雑誌に書いておられましたね。こういう人がこれからも将来どんどん現われて欲しいですね。昔、孫文の革命の時にはたくさんいましたよ。

王柏林 孫文に対して、陰になり、日向になって協力した日本人ですね。

陳徳仁 昔の日本人はもっとスケールが大きかったようですね。孫文が日本に来て世話になったのは、宮崎滔天という人ですね。彼は、中国の革命に使う金はあっても、家族を養う金はないと言ってまで、孫文を援助したんです。実際、孫文が行った時には家族はおかゆを食べていたそうです。こういう人が神戸には少なくなりましたね。今ね、華僑だけがそう言うんじゃないって、日本人もそう言っていますね。

楊勝美 これもやはり時代の変遷でしょう。昔のように



王 柏林さん

の四割ぐらゐは、まだ日本の学校へ行っています。まあ遠くてこれないという人はやむをえないとして、この近くに住みながら日本の学校へ行っている人がいるんですね、これから先は、そういうこともなくなると思います。これを機会に中華同文学校をより一層充実させて、日中友好の橋渡しをしてゆきたいと思っています。

今は幼稚園から中学校まであるんですが、日本の高校に進学する場合には、色々な面で非常なハンディキャップがあるんですが……

王柏林 そうですね。民族教育を受けるのですが、進学する場合には、やはり、日本の受験競争の中に飛び込んでゆかねばならないということで、一般の日本の生徒よりは負担が大きいですね。まあ、しかしこの同文学校から日中友好に役立つような人材を生みだしてゆきたいというのがわれわれの願いです。

石嘉成 やはり地理的にもまた長い歴史の上でも民間の深い交流がありました。こういった人民間の交流の蓄積が、今回の国交樹立を成功させたんだと思います。そういう意味でも、われわれ華僑というものは、毎日の生活の中で日本人たちとふれ合う機会がある訳ですから、その果たす役割も大きく重大だと思っていますね。

王柏林 神戸の華僑は、やはり子々孫々にわたって日本の方とおつきあひし、理解を深めてゆくことに努力して来ました。交友というものが日常の生活の中にとけ込んでしまっているんですね。

神戸の華僑は、今日まで中国は一つ、華僑も一つという考えで一貫してやって来たんです。そういう意味から他の地域の華僑と比べて、神戸の華僑は、より友好的でファミリーであったと言えるかもしれませんね。

楊勝美 国交樹立によって中国と日本は、子々孫々にわたって友好を深めてゆくことになりましたが、われわれ華僑がまさきに先頭に立ってやらねばならないと思います。

華僑というのは、明治から昭和にかけての時代の落

徳川家康や豊臣秀吉が出るような時代と違って、今はやはり、一人の大人物で動くという時代ではありません。人と人との団結によって初めて一つの大きなことができる時代なんでしょう。だから今回の日中国交回復という例をとってみても、やはり、一人の逸材が出て来て実現したということではなく、中国七億、日本の一億の人民のうちにそういった願望があったことによるのだと思います。

神戸と中国との関わりあいですが、国交樹立された以上、さらに深まって来るでしょうね。宮崎市長さんのお話ですが、上海や天津と姉妹都市として提携したいという希望を持っておられ、まもなく実現できそうだとのことですから、一層関係が深まるでしょう。

陳徳仁 国交が樹立されたことによって、今までしなくてはできなかったことができると思います。相当良い企画とか抱負があるんですよ。

林同春 なるほど今まででしたら、国交が台湾とあった関係上、台湾に帰らなければならないために学生を同文学校によこすことが出来なかったんですね。それが今後はそういうこともなくなりました。中華同文学校の歴史はずいぶん長いけれど、全兵庫県の中国人の就学児童



楊 勝 美 さん

し子ということで、今後さらに中国から日本に渡ってくるということもないでしょう。われわれ自身、そういう日本における華僑の特異性というものをかみしめて、子々孫々にわたる日中友好、親善に、尽力したいですね。

林同春 ある学校の校長をなさっていた方が、「われわれ日本人の方こそ、お目出とうと言われて然るべき」と言っておられました。つまりこの前の戦争で中国に対しあれだけひどいことをしておきながら、今回賠償もなく暖かく手をさしのべてもらえたのだから、日本人の方こそお目出とうと言われるのが本当じゃないか、という訳なんです。ところが、今の日本の社会情勢なんかを見ますと、心からそういうように感じておられる方が少ないんじゃないかと思うんです。新聞や雑誌などの論調を見ましても「時機尚早である」とか「何も向うの言いなりになつてまで友好を結ぶ必要もあるまい」などという言葉もとび出して来る程ですね。やはり自分たちが昔なにをしたのかということを考えてもらいたいですね。やはり真の友好のためには、過去も知り、現在も知り、未来も希望を託してやって行かねばならないでしょう。

★中国人の大きな心

林同春 例えば、洋服を売る場合にでも、一つの会社や人間に販売をまかせてしまったりしないです。資本主義社会の場合は、万事お金しだいで洋服を一番高く買うところにまかせてしまったりするのですが、中国の場合は、数社に分けるんです。なぜそうするのかというと、つまり、いかに人民に安く手渡すかということが第一の問題だからなんです。そして、中国の人民も日本の人民も、同じ人民であるという考えが中国貿易の根本なんですね。

——そうした中国人の心の大きさをみたいものが今回の国交樹立の際にも見られましたね。大人の風格ですね。陳徳仁 いや、ほくたちも日本で生れて日本で育っていますから、知らぬ間にある程度日本人の性格に似て来ているんですよ。だから中国人の書物などを読み、中国人の心にふれた時、感激して涙が出て来るし、また反省もするんですよ。

中国の言葉に「恩を施して、その恩を思うな」という言葉があるんです。こうした寛大な心が今回の日中国交回復にも現れたんですね。ほくは自分自身が中国人でありながら、今回の中国の指導者の人たちの態度には頭が下がりますね。

王柏林 そうですね。中国政府のいろんな対外的な政策についても、われわれ華僑の目から見ても誤りのない政策だと思います。もろ手をあげて賛成なんです。ただ華僑というものは、自分たちの生いたちというものを、身を守るものが自分たち以外にないという試練を越えて来た歴史を振り返ってみて、金だけがすべてであるというふうな考えになりすぎているのか、とういうことを反省しなければならぬと思いますね。

陳徳仁 日本の人たちに対する批判は、同時にわれわれ自身に対する批判にもなる訳ですね。

王柏林 今後は、やはりわれわれ華僑も、本国政府の寛大な心にならつて、今までのわれわれ自身を変えてゆかねばならないでしょう。祖国の中国とまったくかけはな

れた存在にならないとも限らない。そういう意味で、自分自身を振り返って考えてみるということが、日中国交回復以後の私たち華僑の課題になると思います。

陳徳仁 やはりお互いに反省しあって、理解ある人々を手を結び、理解のない人々ともいくども話しあい友好を深めてゆくというのが、われわれ華僑の使命であると、私は思いますね。

楊勝美 先程、賠償の話が出ましたが、確かに中国の受けた被害は莫大なものです。ところが

が中国は今回賠償を求めなかった。それは、これから友好を結ぼうという国の人民に負担をかけてはならない、という考えからであって、決して過去において中日戦争を引き起こした一部の軍国主義者たちに対して寛大にすることではないのです。

王柏林 損害を与えたのは一部の軍国主義者であり、日本人民自身も被害者であったという考え方ですね。

楊勝美 口で言ってもなかなか実行できにくいものでしょうけど、そういう点では、日本の人民も勤勉で偉大であるけれど、中国人民も偉大であるという感じを受けましたね。

王柏林 つまり、明確に分けて考えているんですね。日本人民と日本軍国主義というものをね……

陳徳仁 中国人は非常に平和な民族であるということは分りますね。

★神戸にチャイナ・タウンか友愛会館を

楊勝美 横浜では、中華街という形で中国人の街が発展しましたが、神戸の南京街はさびれてしまいましたね。



神戸華僑会館での座談会風景

陳徳仁 神戸にも原口市長の頃にチャイナ・タウン建設の話がでたんですけどね。今度ポートアイランドが出来るでしょう。あそこに神戸市が土地を提供してもらったらつくれるけれどね。安くでわけてもらってもいい。

王柏林 チャイナ・タウンというイメージは、何か懐古趣味的な要素を含んでいますから、ほくはむしろ新しいものをつくるというのは問題ではないかと思っています。

楊勝美 店があればいいですね。

陳徳仁 私はもっと早急につくって行きたいと思うのは、神戸の日中友好懇親会のようなものですね。とにかく、これからやりたいことがいっぱいありますよ。

それに、神戸の華僑自身も、日本人化していますから、この際自分自身をふりかえって謙虚に反省して、これからの子々孫々のためにも、自分をみがいて日本人達と仲良く明るい生活を築いて行きたいと思っています。

日本の皆さんも、スケールの大きい考え方て中国の人々とも、われわれともつきあってほしいですね。

編集部 今日はお忙しいなかをありがとうございます。〈神戸華僑会館にて〉

☆ ☆ ☆
☆ ☆ ☆

パーティーのための
自然なヘアー



株式会社美容室 **エリザベス**

本店 三宮神社山側三上ビル2F TEL 331-8894・4917
芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 TEL 0797-22-4067
西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1F TEL 0798-671294

お貸衣裳 **花嫁衣裳サロン**

畑尾美久子の店 生田神社前 TEL 331-3258
美容担当 (東京初代 遠藤波津子直流)
専属結婚式場 生田神社・オリエンタルホテル
阪急六甲山ホテル・住吉学園・蘇州園他

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話 331-8836(代)
東店/三宮センター街・電話 331-0629
三宮店/さんちカタウン・電話 391-4303

東京

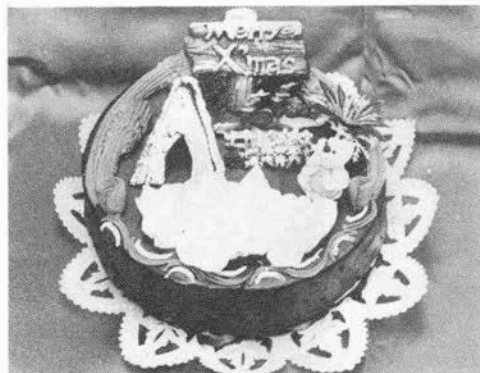
銀座コア店/4階着物コア・電話573-5298(代)
渋谷東急店/5階和装名家街・電話462-3409(直)
日本橋東急店/4階和装名家街・電話211-0511(代)
(内線294)
池袋バルコ店/4階着物小路・電話987-0561(直)

Merry Christmas
 聖夜 あなたの胸に輝く
 きたむら パール



北村真珠店
 元町通2丁目60 TEL.331-0072

メリークリスマス



クリスマスデコレーションケーキ予約承ります



北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本 社・工 場	神戸市東灘区西内町1 (市立美術館東隣)	TEL 221-1164
■三宮センター店	神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン)	TEL 331-2421
■さんちか店	神戸三宮地下街スイーツタウン	TEL 391-3558

★ようこそ神戸へ！

肖向前首席代表神戸訪問



友交を確かめあって乾杯／左・肖向前氏



中国船の船員を交えた楽しい歓談の輪がひろがった
中央肖向前夫妻

九月末に日中共同声明が出され事実上の「大使館」になった中日備忘録貿易弁事処駐東京連絡処の肖向前首席代表が十一月十日宮崎市長の招待で神戸市を訪れた。

日中国交回復後中国要人が来神したのは初めてで、この日午前十一時、新神戸駅で大熊市総務局長が肖氏を出迎えた。大熊氏と肖氏は昭和十五年、東京高等師範（現在の東京教育大学）

時代に学校の寄宿舎「桐花寮」で同室だった間柄。三

十年ぶりの再会に新神戸駅で固い握手を交わした肖氏はその足で市役所へ。待ち構えた宮崎市長らと神戸市政の現状や天津との姉妹都市提携、中国船優先パス計画などに花を咲かせ、午後は李黙夫人と同伴で市の港務艇「おおわだ」で神戸港を見学。

このあと、午後六時から相楽園で開かれた歓迎会に出席。

歓迎会ではまず宮崎市長が「中日両国が増々友好を深めることを期待する」と挨拶。市長より肖氏

へ記念の楯が送られ、市長夫人から李黙夫人へ日本人形がプレゼント。つづいて肖向前首席代表が、「両国の首脳会談で共同声明が出され、これからの中日関係は戦争状態を終え、新しい一ページが開かれました。私達中日両国人民はいくらかの曲折があったにもかかわらず、この中から教訓をくみとって長期的な友好を保ち、いつまでも長く仲良くしていきたい」とのべ、会場から盛んな拍手を浴びて乾杯。あとを受けた坂井知事も「日中の兄弟のような間柄をより深め、文化、経済交流の前に心と心の交流をしたい」とのべ、肖向前氏にプレゼント。

この日はちょうど神戸港に停泊中の中国船「豊城」「風雷」「康定」の三隻の船員も招かれ、振袖姿のクイーン神戸から花束を贈られて上気嫌。

ひととおりの挨拶が終ったあとは肖向前氏が樽酒の鏡開きをし、日本酒で日中の友好を確かめあって乾杯。歓迎会に出席した約三百人の神戸在住の経済人、文化人らと楽しく語り合いながら肖氏は三十年ぶりの神戸の夕べを楽しんだ

●特集〈3〉

神戸のなかの中国 味と買物めぐり



パンダちゃんから中国陶器店ある「東亜公商」



トアロードの「幸昌洋装店」



中国工芸品を並べるトアロード「四興公司」

●買物

日中復交によって、日本中中国ブームで湧きに湧いているけれど私達神戸っ子としては、今さらと言う感じが強い。神戸の街から中国のお店を除くと神戸の魅力も半減してしまう。もう理屈ではなく感覚的に溶け込んでしまっている中国のお店、トアロードのチャイナショップをのぞいてみた。

中山手三丁目のバス停からトアロードを少し南下して神戸税務所の細い路地を西に入っていくと東栄商行(TEL391・3626)がある。かなり広いお店で、中国商品を直輸入していて、卸が主体だけれど小売りもしてくれる。店の内に一歩踏み入るとブーンと独特の匂いがする。ユバ、フカのヒレ、ユリの花を乾燥させた金針菜、燻製卵皮蛋・咸蛋などの乾物商品、珍しい缶詰・瓶詰の食料品や書籍、民芸品、美術工芸品、繊維製品など何でも揃っていて、お値段の安いのは驚異的。中国の商品は



神戸の華僑の中心なセンター
神戸華僑会館

特に手が込んでいて、ペアーの枕カバーなどの刺繍は綿密で柄も一對になるように心遣いされているのは驚き。中国の現状や旅行の話もいろいろ話して下さる。質素でとても感じのいいお店なのです。

神戸税務所の斜め向いには婦人服のジョー洋装店(TEL331・1512)、その向のバナナを売っている店の隣、三番館の3Fには順天貿易(TEL331・3061・2)という真珠をベースにして、繊維・骨董品を主に扱っている貿易会社がある。作家・陳舜臣さんもこの株主だそうで、代表取締役の林天民さんは、中国関係の仕事をもう長い間なさっている。

順天貿易の二・三軒先に、中国の美術工芸品ばかりを扱っている四興公司(TEL331・1430)というトアロードでもひときわ目立つ店がある。清朝・明朝代の品物が多いとかで、日本の中国品愛好家が絶えずやって来る。彫刻、貝殻をあしらった花台や屏風



中華料理の素材を売る南京街通り



刺しゅう製品のブラウスや小物の店「サンコー」



中国の乾物何でもあります「源豊洋行」

今では貴重な端溪の硯、大清康熙年製と記された古い80cmもの高さのある豪華な壺などで、質素な中国のお店にしては店内は優美華麗な刺の裏には複雑な中国の年表を印刷してくれている良心的な店。

中華料理店の杏花村・神仙閣の前の生田新道を渡ってから高架に行くまでのトアロード筋には、紳士、婦人服の店がずらりと並んでいる。華かだった過し日のトアロードをよく知っておられる古いお店ばかりで、山口銀行向いの幸昌洋装店(TEL391・1158)は、スイス、フランス、イタリイ、ドイツ、イギリスの輸入品も扱っている高級洋装店。御主人の汪和生さんはシルク緞子で有名な杭州の浙江省出身の人。見習職人から自力で今のお店を築きあげ、自ら仕立て、カットもする。中国と日本の経営方針の相違を教えらるる神戸を心から愛し骨董品をいっぱい集めている話題の豊富な人。そして、一軒おいた隣には、紳士服で有名な益泰昌ことアーリン商店(TEL331・4717)その斜め向いれんが亭2Fには源昌洋服店(TEL331・8638)。サンセット通り手前には五十年も続いている紳士服店・真記洋服店(TEL331・3566)がある。高架の山側を元町駅に向って二、三分行ったところに源豊洋行

(TEL331・5715)という船舶伙食、海陸物産、中国工芸品を取扱っていて、中華料理店をするにも中国式婚姻を行うにもここに来ればすべて揃う店。中国の線香や、花火、結婚証書、銀食器など珍しいものばかり。食料品の上に無難作にパンダがほうり投げであつたりする。

トアロードをさらに下って柳筋を入ったところには、中国製の婦人服、セーター、カーディガン、ブラウス、チャイナ服を売っているサンコー(TEL321・2584)がある。女の人三人でやっている店だけれど、神戸の人ならもう誰も知っているおしゃれの店。つづいて神戸において、中国、と言えはすぐ思い浮かべるのが南京街ではないだろうか。

元町商店街の南側の細い商店街だが、大丸前から入ると一〇メートル程に多種多様のお店が並んでいる。その様子は昔の生彩を失ってはいるが、正に神戸の「中国」だ。

まず目につくのが、海陸産物を扱うお店。食料雑貨として中華料理の材料はすべて揃っている。店頭で冷蔵庫を据えた聯貿有限公司(TEL321・2746)には、種々の缶詰、乾物、ナッツの類、冷凍肉など所狭しと並んでいる。今、奥さんが中国へ帰っていると。



作家陳舜臣氏が推せんするトアロード「西湖」



トアロードの異人館の「東明閣」



元町通のチャイナショップ「ピーニー」

戻られたら変わった中国料理を教えてもらえるかもしれない。こうした食品雑貨としては、廣記商行永昌行、恵記商行、景隆行が軒を並べ、南へ下がる道には海福商行が面している。あひるの肉（1キロ・400円）や、ふかのひれ（1缶・600円）変わったものでは豆腐の漬物（1瓶・200円）もある。同じく食料品の大同行の御主人は国交の復旧で、マーケット等に中国の商品が入りはじめ、南京街への客足が遠のいたりする事がなければいいのだが、と案じていた。他に食料品として欠かせない焼豚の店も、もちろん並んでいる。堂記豚肉商店（TEL 331・0664）では、タレの香ばしい臭いが食欲を誘う焼豚を大きな塊りでカギにぶら下げている。益生號も豚肉専門。

食料品関係の他特色のあるのが中国漢方薬の万世堂（TEL 331・3397）がある。中国から取り寄せた漢方薬が古いたんすの様な棚に収められている。御主人が相談に応じて、細長い店内の両側に並んだ引出しから、腎臓・肝臓の薬強精剤、何でも取り出し調合してくれる。50年から続くこのお店には、関西では一軒しかないという事もあって、遠方から買い求めに来る人も多くあるとか。思いがけない効用のある薬を見つけ

られそうなお店だ。

南京街を少し南へいくと、旧市電通りとの角のビルの一階に、大和貿易がある。中国工芸品のお店陶器の壺や人形、装飾品の他に木製の衝立、掛軸、いろいろ揃えてある。

南京街から離れて元町一帯にも中国のもののショッピンングに適するお店は点在する。

元町通り二丁目のPEONY（TEL 331・5570）ウィンドウに並んでいるのは七宝焼のペンダント、花瓶、灰皿。陶器もデザイン色彩は一樣に繊細で、コーヒースセット等も素晴らしい。七、八割が外人客という事で、シルクのハッピーや日本と中国とが折衷されたような扇子も楽しい。

又、トアロードを北へ。高架下商店街に入ると、山側、55号の中華書店（TEL 331・5998）がある。中国書籍、切手、文房具の他に、レコード、衣料品、食料雑貨等種々の商品が並んでいる。中国に関する本、中国料理の本など豊富で一番。又船便で20日、航空便で一週間遅れて到着する新聞は、人民日報など学生達の人気が高い。

●味覚

兵庫県内に住む華僑の人々は、約九千人といわれるほどだから、



いつも変らぬたづまい、赤いのれんの老祥記



元祖ぶたまん只今一皿
三ヶ四十五円也



サンセット通りの味どころ「群愛飯店」



生田新道「梅春園」チマキと腸づめがづらり

神戸の街の中にとけあつて神戸っ子と呼んだ方がふさわしい人もある。そんななかで三刃といわれる料理、洋裁、散髪屋を商う華僑の人々は多く、ことに味覚は神戸の絶対的魅力の一つ。

★広東料理なら「金龍閣」(新聞会館七階)の「歯水鮑片」「ロウツパイビン」を。あわびと鶏の脚料理で通の味。「干焼伊麵」「コーンシユイ」「ミンモ焼そば」の一種で独特の風味は、陳徳仁さん(中美洋工社長)ご推せん。

元町一丁目の「別館牡丹園」

は、通の人なら中国人用のメニューでご注文を。炒鮮奶、チャオシンナイ(四〇〇円)はビーフン料理のからやかな味。もつとフレッシュなのは「生葉包」「サンツイパウ」でレタスにミンチやビーフンをあしらって食べる。別館分店はさんちかにも、貿易センタービルにもあつて手軽。中国の人が多い鯉川筋よりのサンセット通りにある「群愛飯店」は店は小さいが味はバツグン。広東のおかゆとよせなべもよく、一品料理もご主人の手づくりの風味がでて貴重。トアロードにある「杏花村」(キョウカソン)やNHK神戸放送会館向いにある「西湖」も、あつさりとした広東料理の味が、家族的な雰囲気でも味わる。「九龍」はサンブラザの二階にある中華バイキン

グ店。「点心」が出されるので値段も安く若人向き。

上海料理の貝料理を食べさせてくれる「愛園」と「新愛園」は、元町駅よりのサンセット通りであつて、魚とトーフの煮物や青蛙、お餅料理などユニークな一品を安く出してくれる店。

北京料理は、トアロードにある異人館の「東天閣」は一室一室に西洋館のおもむきと中国情緒がとけあつてエキゾチック。姉妹店の「東明閣」は神戸大丸の南、明海ビルの八階にあつて可愛いオウムが出迎えてくれるし、ポートタワーがのぞめるいい景色。

また、トアロードの「神仙閣」

や京町にある「龍鳳」江戸町にある「第一楼」、県庁南西にある「天京」神戸駅北の「天安閣」、長田の「八仙閣」北野町の坂の上にある「北京楼」など味・量ともにたつぷりたのしめる宴会料理が主体の北京の味覚通は前菜で勝負するとか。忘れてならない南京街の元祖ぶたまんの「老祥記」赤いのれんをくぐって入ると汗たらし粉をねって一皿三ヶ四十五円。昔も今も変らぬ味を確めてほしいもの。ぶたまんでもう一軒、鯉川筋の「東亜食堂」も美味しい。「梅春園」(生田新道)もくんせい腸詰、肉粽(チマキ)などオミヤゲに格好。

佐本歯科

幼児歯科・小児歯科

診察時間（予約制）

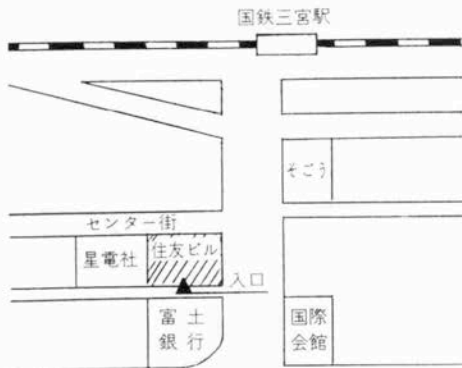
A.M. 9：00—P.M. 1：00（受付12：00まで）

P.M. 2：00—P.M. 6：00（受付5：00まで）

（土曜・木曜は午前中）

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階

TEL(078)331-6302~3



〒650 生田区加納町 5丁目39

こんにちは赤ちゃん



芦屋市平田町／岩本美緒ちゃん

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大槻町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

★神戸の集いから

★芦屋川国際ビエンナーレ展

オープニングに集う

さる十月十九日から三日間、芦屋ルナ・ホールの地階会場で「1972 芦屋川国際ビエンナーレ展」が開催された。

抽象芸術を少しでも親しめるものと企画した、フランス帰りの松谷武判、生花の肥原俊樹、洋装店主の真壁義昌さんらに、堀尾貞治、松田豊、三島喜美代、太田タマコ、谷采鴻、植木守康、モリーリン、ヘイウッド、キャバレロ、ギター、バンホーデンさんなど国際色豊かに、十三名が参加ユニークな作品展であった。



★メイプル不二屋の

オープニングパーティ

トア・ロードのインテリアストア不二屋が、十一月六日北阪急ストアのある街に、一〇〇坪近い広さのスペースを「メイプル不二屋」と名付けて世界のインテリアサロンをオープンした。

メイプルは楓だが、社長の吉田友二さんが、カナダの産するこの素材に目をつけて手づくりのメイプル屏をデザイン。処女の肌のような美しさだ。神戸家具の伝統を生かし、モダンさを加味した店づくりは立派。当日二階でなごやかなオープニングパーティが開かれた



★KOBESHIP CLUB

キャンベラ号スタッフへ
日本のカレンダーを贈る

春と秋に白亜の船体を見た四万五千トンのキャンベラ号がいよいよ日本への定期航路をとり止めてこの十月二十七日の入港がラスト航路となった。長い間神戸っ子に親しまれ、愛されたキャンベラ号に「コウベシップクラブ」ではスタッフ八〇〇名に日本の心をつ



左、小川直彦さん右、キャンベラ号船長

たえるカレンダー(七枚つづり)を贈呈して最後の労をねぎらった。

贈呈式には副キャプテンの小川直彦氏があたり、キャンベラ号のキャプテンルームで、キャプテンに手渡された。さよならキャンベラノまた逢える日まで……。